

プロジェクト共有サーバーが実現した高効率コラボレーションワークフロー環境 ～最良の Final Cut Pro 制作環境を実現したプロジェクト共有サーバー～



株式会社インファス・ドットコム / 映像通信について

(株)インファス・ドットコムは、ポストプロダクション業務を行う映像通信事業部とファッション系映像を手掛ける映像制作事業部の2事業部で構成しています。「映像通信」はポストプロダクションとして歴史が古く、映像技術の進化や様々なお客様の要求にきめ細かく対応しながら現在まで営業を行って参りました。

スタジオのHD化も完了し、オフライン～オンライン～MAまでバラエティに富んだスタジオを擁し、多種多様な作品作りが可能となっています。また、今回新設した「FCP Black」「FCP Red」といった他社には無い独自サービスの提供で、お客様から大変好評を博しております。本年からは、3Dステレオ対応のカラーグレーディングシステムも導入しました。さらなる進化を遂げていく「映像通信」にぜひご期待下さい。

導入経緯

株式会社インファス・ドットコム / 映像通信(以下、映像通信)は、テレビ番組、CM、企業VP、ミジクビデオなど多様な映像編集を手掛けているポストプロダクションです。

昨年6月にそれまでの編集環境に加えてFinalCutStudio(FCP)ベースとして安価で効率的な編集環境を提供するというコンセプトで2つの編集室を開設しました。

「FCP Red」と「FCP Black」の開設された2部屋には各々4台のMacPro+FCPが置かれ各部屋の作業は編集ワークに最適な環境を提供するEditShare社のStorageサーバーとGbitイーサネットで接続され全てのエディターがコラボレーションワークを行なえる環境を実現しています。

「編集室の開設には当初からFCPを用いて安価で且つ高品位な編集環境を実現したいという目的があり、ProResHQを各MacProで2ストリーム(オーバーラップ)はレンダリング無しで安定して出来る事が条件でした。」(山本氏)

導入のポイント

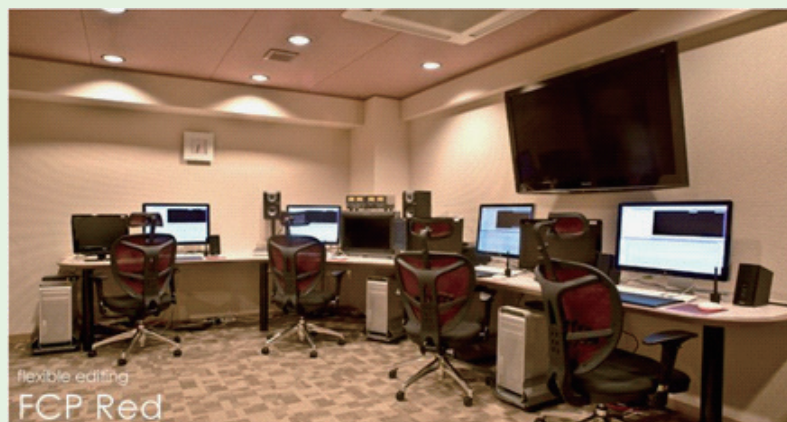
各部屋の4台計8台のシステムが同時稼働して各ProResHQが2ストリームでの作業が問題なく出来ることと素材プロジェクト共有を実現するシステムを構築することが必要でした。

「今回の編集室開設にあたり従来と違った観点からFCPベースの環境を作る上での必要条件に対して明確な回答、提案をしてもらえたのがEditShareでした。特にストリーム数の保証やFCP環境でプロジェクト共有機能を提供出来るのはEditShareだけでした。」(山本氏)

EditShareの製品のコンセプトである「編集ワークフローの為にコラボレーション環境を提供する為の共有サーバー」として進化を遂げてきたシステムの持つポテンシャルが今回の編集室構築の要望に対応できたポイントとなりました。



FCP Red



FCP Black



株式会社インファス・ドットコム / 映像通信
映像通信事業部 Editing Supervisor 山本龍次様

導入・その効果

導入された EditShare サーバーは、信頼性、運用性に優れた 8U シャーシタイプ Storage システムで 40TB で構成されています。

「FCP Red」および「FCP Black」にある各 4 台の MacPro の FCP 編集システムで使用するコンテンツを格納する共有サーバーとして、10Gbit でネットワークスイッチにアップリンクされスイッチから Gbit で各システムと接続されています。

実稼働後は、大きな反響を得たということで現在は稼働率も非常に高い編集室になっています。「基本的にはエディター、アシスタント各 1 人で作業を行いながら部分的な修正、レンダリング、クライアントチェックをするなど 4 台のシステムを効率的に運用しています。」(安積氏)

各部屋では、プロジェクト共有環境によりエディター、アシスタント間での作業を円滑にして、エディターの作業を極力損ねることなく編集作業を進めることができます。FCP の他に MacPro に搭載されている Adobe Photoshop、Illustrator、AfterEffects など映像編集ツールにより、様々な作業がフレキシブルに行える上複数台の編集システムで並行作業ができるコラボレーションワークフローを実現しました。

「EditShare 環境にしてオフラインからのコンフォーム作業が並行して 4 台で同時にリキャプチャ出来るということは作業効率を上げるということでは、従来出来なかったことです。」(山本氏)



株式会社インファス・ドットコム / 映像通信
映像通信事業部 編集技術課 安積優様

今後のシステム展望

映像素材がデジタル化され、また画質が高精細化、3D ステレオ対応などデータ量の増大が不可避でありデータ効率的な運用、保存、変換に掛かる時間短縮、作業効率の向上が益々重要になってきています。

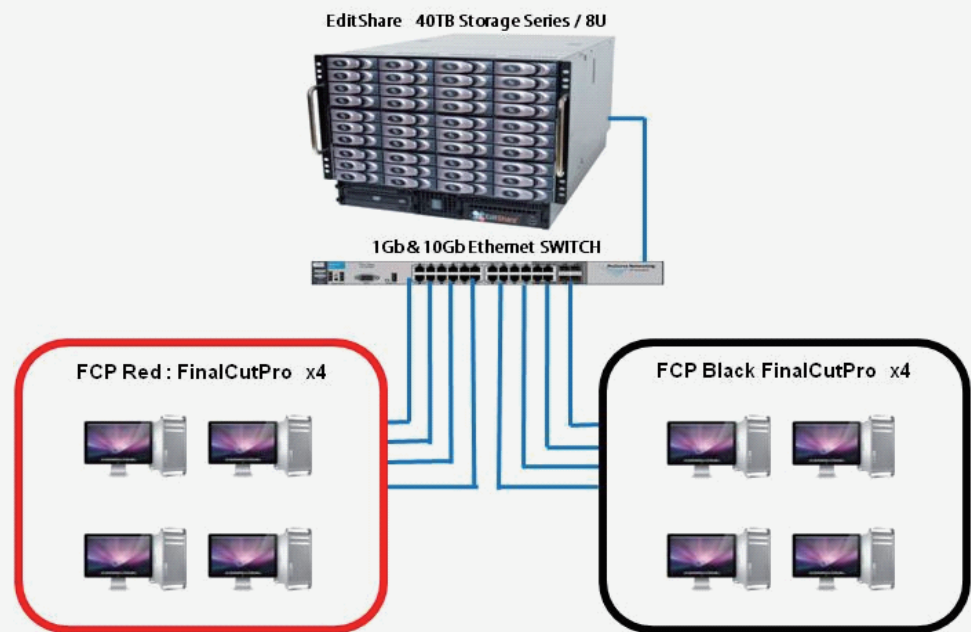
映像通信様では、現状の稼働率が高いということもあり容量の拡張が次の課題となりつつあります。

「当初にも考えていたのですが、やはり非圧縮データへの対応ということも検討していく必要があると思っています。また 3D ステレオへのニーズも高まってくるでしょうからシステムの強化、増強を検討していこうと思っています。」

「全ての MacPro はもとより、既存 Avid システムとの連携、全社的なネットワーク接続、データ受け渡しの効率化なども今後の検討課題と思っています。」(山本氏)

映像編集作業環境を強化拡張していくという要望に対して、EditShare の原点である映像制作編集作業のための共有サーバーとしての特徴、拡張性、運用性を活かし、ニーズに沿った最適なソリューションとしてのシステム提案が期待されています。

<システムブロック図>



導入した Storage システム

